

いかわみざわ

発行所 岩見編集部
編集 岩見編集部
印刷 岩見編集部

6月 27日 22日 16日 12日
日 日 日 日
保全週刊
夕張小中学校
夕張工業
夕張青年
夕張少年
夕張児童
夕張婦人
夕張老人
夕張青年
夕張少年
夕張児童
夕張婦人
夕張老人

群隊務運営計画決まる!!

54年度



団銃剣道競技会(6月)
支部方面総監訓練検閲(8月) に向け
団長訓練検閲 (10月) 前進!!

団長統率方針

常任戦場

立志努力

即応必勝

群隊務運営計画重視事項

一 即応必勝の訓練

二 人生の充実

(能力、資質に充ちた個人指導の徹底)

三 防衛基礎の確保

(地域住民に対する防衛意識の啓蒙)

全隊員徹底事項

山	火	林	風
山のような目標を達成せよ	火のような状況下で鍛えよ	林のように訓練に耐えよ	疾風のような戦法を工夫せよ

昭和三年に日本が敗戦した時、旧制中学の高級生でもあつた群隊長達に歴史の先生が「この戦争は侵略戦争だから必ず敗けるとわかっていたが、今まではいふなかつた」と苦しい顔で話をした。だが敗けるとわかっていたのならば、なぜ神国日本は不敗だ、などと教えたのかと、必勝を信じていた群隊長は、くちで一杯になつた事を覚えていた。

つい最近まで一部の人は「共産主義の国からは戦争はしかりない」といふたが、ベトナムとカンボジアの戦争、中国とベトナムの戦争が起つた今、これだけの人は、何というのだまか、しかし、今度は何といふかと群隊長はくちくちはない。そんな事は信じられない。

からだ。日本人は心情的なところが多いせいか、とかくこのことの表面だけで、正邪を判断する。また、それを利用する人もいる。武力を持った我々は防衛に使う確固たる信念を持ち、誰れよりも、何か正義で、何か正論であるかを正しく判断する必要がある。これを持たねば、いかに優秀な装備を持つても役に立たない事を歴史は教えている。

第十施設群隊長
一佐 大久保良彦

防衛モニター決まる！
まわりよたろり 廻 与 太 郎
大成機械に勤務 (六十五才)

今度、新しく防衛モニターを拝命しました。前職は炭鉱マンですが、身内から自衛隊員二名を入隊させるほどの自衛隊ファンです。いろいろ勉強して皆さんのお役に立ちたいものと思つています。皆さんの温かい御支援を得まして大役を全ういたしますと存じております。よろしくお願ひします。

天才幼児

312号中
伊島高

母の入院見舞いのため
五月の連休を利用して
帰省したが、帰路十五
日に友人に会った。
女房口く、十五年ぶりの
Hさんはすっかり亦たつて
いて、一寸見ても分らな
く、いざ会って見ると昔と
全然亦たつていないH氏
に、ただただびっくり
とても四十一歳とは思
えない若々しさである。
母の入院している医大
かう一路H氏の自宅に
直行、気さくな奥さん
の出迎を受け、昔話に
花を咲かせようと胸
おどらせて居間に導
かれたが、そこで二度びつ
りする事態に遭遇した。

H氏は結婚して二十一年、
十歳の長女に七歳の三女
四歳の長男と子室に
恵まれ、幸せな家庭を
築いていた。

H氏の奥さんとは、不断
電話では色々話をし、
気心は知っていたがH氏の
子室に会うのは初めてで
あった。挨拶をすませ
ますは一杯と盃をかた
めていたが、その側で
四歳になる長男が、紙
紙を二つ切りにした裏紙に
一筆懸命に「お母さん、お
い、何気なく見ると片
仮名や、平仮名ではなく
なんと漢字を書いていた
のである。初めは簡単
な漢字だけだったがと思
い、ほくほくが上手だね」と
めだ途端、またよと喋れな
い言葉で「お母さん、言
偏だけでも沢山あまんたよ

と言うと、書けば書けば
「計読説訂訓記録
等は序の口、人偏」は
何々「才偏は、これこれ
と、大人でも忘れていた
な字まで、書きはじめ
おまけに「挨拶」は、こ
書目くたよと、かほく
新聞も読めるよ」と言
つて読めはじめたのには
三度びつくり、ただただ
女房と顔を見合せさ
だけであった。

「計読説訂訓記録
等は序の口、人偏」は
何々「才偏は、これこれ
と、大人でも忘れていた
な字まで、書きはじめ
おまけに「挨拶」は、こ
書目くたよと、かほく
新聞も読めるよ」と言
つて読めはじめたのには
三度びつくり、ただただ
女房と顔を見合せさ
だけであった。

H氏兄には、二時間程の
短い時間ではあったが、
旧知り話ほめつうのけで
話すとは、四歳の長男
の天才ぶりを見ると
聞くことだけで引き上げ
ざるを得なかった。
その四歳の天才幼児は
勿論、算数の加減は
十萬単位、乗除は十単
位まで、分数も簡単な
ものは、幾つかできると

H氏の奥様言「これ
から先、何年、何十年
後かには、また突然、変異
が、普通の子供にもしど
ろかし、小ないの、あま
り自慢することでは
ないですよ」という謙虚な
言葉に、お母さんの心を
憶え、るとともに突然
変異とはい、之、このまま
素直に成長してくれ
る事を祈りながら、終
身結婚の人となつた。

「計読説訂訓記録
等は序の口、人偏」は
何々「才偏は、これこれ
と、大人でも忘れていた
な字まで、書きはじめ
おまけに「挨拶」は、こ
書目くたよと、かほく
新聞も読めるよ」と言
つて読めはじめたのには
三度びつくり、ただただ
女房と顔を見合せさ
だけであった。

H氏の奥様言「これ
から先、何年、何十年
後かには、また突然、変異
が、普通の子供にもしど
ろかし、小ないの、あま
り自慢することでは
ないですよ」という謙虚な
言葉に、お母さんの心を
憶え、るとともに突然
変異とはい、之、このまま
素直に成長してくれ
る事を祈りながら、終
身結婚の人となつた。

H氏の奥様言「これ
から先、何年、何十年
後かには、また突然、変異
が、普通の子供にもしど
ろかし、小ないの、あま
り自慢することでは
ないですよ」という謙虚な
言葉に、お母さんの心を
憶え、るとともに突然
変異とはい、之、このまま
素直に成長してくれ
る事を祈りながら、終
身結婚の人となつた。

中隊長室の移転

三三六施設中隊は、営内陸
曹に、結婚を進め、営外
に出ることを將校してい
現在、営内陸曹八名中
三名が、ほぼ決定して
これに伴って、中隊長
決心、西側の中隊長室
を、営内陸曹室に、東側
陸曹室を中隊長室、東
幹部室とした。
五月十日以降、あまり
ないので、皆入る、あま
ないように、三三六中某曹

編集後記
しばらく休刊してしま
期報として、再版する
ことになりました。
いままでも、よりよ
お願います。投稿を
多く、お願いをします。
十三施設 広報